

# 中小企業景況調査結果

【平成 29 年 1 月～3 月】

平成 29 年 4 月  
富士商工会議所調べ

## ◇ 調査実施要領 ◇

富士市内中小企業の景気動向と経営状況について調査を実施した。  
製造・建設・卸売・小売・サービス業の 5 産業、208 事業所(回収率 65.4%)を対象に、  
「平成 29 年 1 月～3 月」の 3 ヶ月間の生産・売上および経営状況の調査を行い、その結果を産業別  
にまとめた。

### DI (景気動向指数) とは

『上昇・増加・好転』したとする企業割合から、  
『下降・減少・悪化』したとする企業割合を差し引いた値。

前期…28 年 10 月～12 月 今期…29 年 1 月～3 月 来期…29 年 4 月～6 月

表中の矢印=5ポイント以上の推移を上下矢印で表し、5ポイント未満は横ばい矢印で表示した

## ◇ 今期調査の概況 ◇

主要DI	前回調査		今期調査 (前年同期)		来期予測
業況	▲13.4	↑	▲3.7 (▲32.8)	↓	▲12.1
売上	0.8	↑	12.0 (▲12.8)	↓	0.7
採算	▲14.7	↑	0.0 (▲23.1)	↓	▲17.4

今回調査では、全産業合計の業況・売上・採算 DI 全てが上昇した。前回の調査でプラスに転じた売上 DI に続き、今回は採算 DI が 20 年以上続いたマイナスから脱し、売上・採算 DI は共に 3 期連続上昇となった。採算 DI を産業別にみると建設業・卸売業・小売業が 30 ポイント以上の上昇となり、回復基調が窺われた。一方、サービス業のみ主要 DI が全て下降しており、特に採算 DI は 34.6 ポイント下がった。コメントでは、ホテルの進出ラッシュや原料の値上り等による影響で苦慮している声が寄せられた。

来期については、全産業合計の業況・売上・採算 DI とも下降の予測となった。円安や原材料の価格上昇、人材不足による諸問題などにより慎重な予測になったと思われる。産業別にみるとサービス業の採算 DI は、▲50 ポイントと大きく下降する予測となった。しかし、卸売業の業況 DI のみ上昇予測となった。

経営上の問題点では、製造業・建設業では「商品、原材料仕入れ価格の上昇」、卸売業では「過当競争」、小売業では「売上減に伴う利益減」、サービス業では「販売価格値上げ難」「売上、利益減による資金圧迫」「設備老朽化」が 1 位となった。

◇ 全産業の動き ◇

**〔業況のDI〕** 製造業、小売業は上昇。建設業、卸売業は横ばい。サービス業は下降。  
来期は、卸売業は上昇を予想。製造業、建設業、小売業、サービス業は下降を予想。

業種	前期		今期(前年同期)		来期予測
製造業	▲15.1	↗	12.5 (▲11.1)	↘	7.5
建設業	3.9	→	4.0 (▲34.8)	↘	▲16.0
卸売業	▲9.1	→	▲4.7 (▲47.6)	↗	9.5
小売業	▲31.9	↗	▲19.0 (▲38.1)	↘	▲38.1
サービス業	▲16.7	↘	▲22.2 (▲45.9)	↘	▲34.7
全産業	▲13.4	↗	▲3.7 (▲32.8)	↘	▲12.1

**〔売上高のDI〕** 製造業、卸売業、小売業は上昇。建設業は横ばい。サービス業は下降。  
来期は、卸売業は横ばいを予想。製造業、建設業、小売業、サービス業は下降を予想。

業種	前期		今期(前年同期)		来期予測
製造業	12.1	↗	22.5 (13.9)	↘	15.0
建設業	3.8	→	8.0 (▲4.4)	↘	▲8.0
卸売業	▲9.1	↗	19.1 (▲52.4)	→	14.3
小売業	▲9.1	↗	14.3 (▲28.6)	↘	▲5.2
サービス業	0.0	↘	▲7.7 (▲12.5)	↘	▲19.3
全産業	0.8	↗	12.0 (▲12.8)	↘	0.7

**〔採算のDI〕** 製造業、建設業、卸売業、小売業は上昇。サービス業は下降。  
来期は、全産業で下降を予想。

業種	前期		今期(前年同期)		来期予測
製造業	▲12.1	↗	5.0 (2.7)	↘	▲7.5
建設業	▲15.4	↗	16.0 (▲13.0)	↘	▲20.0
卸売業	▲22.7	↗	9.5 (▲61.9)	↘	0.0
小売業	▲31.9	↗	0.0 (▲38.1)	↘	▲10.0
サービス業	3.8	↘	▲30.8 (▲25.0)	↘	▲50.0
全産業	▲14.7	↗	0.0 (▲23.1)	↘	▲17.4

## ◇ 産業別の動き ◇

※コメントは回答に基づき要約しています。

### 〔製造業〕 景気ムード…【低調】

『製紙』…「家庭紙の輸入品が毎年増加しており、国産品の値上げをするうえで、大きな障害になっていると思われる。」との声。「出版物の不況により売上は減少している。」「年が明けてから良くない。合理化による自己努力で売上減をカバーしていく。」とのコメント。

『紙加工』…「情報用紙は輸入減の為、生産量は多少の増加が見込まれる。トイレットペーパーについては、より一層競争が激化すると思われる。」「横ばいであり、今後も状況は変わらないと思われる。」「需要は、板紙等の原紙のみ安定している。今後も極端な増減はないものと思われる。」との声。また「製造業に就職を希望する若年層が減少しており、人員確保が難しい。」とのコメント。

『機械器具』…「米国向けの輸出はある程度先まで好調だが、中国向けは減少している。」「半年先の受注は確保出来ているが、その先は分からない。」との声。「競合他社が利益度外視で参入して来ており、苦しい状況に追い込まれつつある。今後の対策として、コストダウンできるよう設備投資をせざるを得ない状況である。」とのコメント。「輸出が好調であり、来期以降も輸出増の見込みである。」との声。自動車関連でも「全体的に好調の様子で、半年先までは良さそうである。」「メーカーにより異なるが、悪くない状況が続くと思われる。」とのコメント。また「物流関連需要が堅調である。公共投資の下支えと底堅い需要が続くものと思われる。小型トラック需要は、小規模商店の減少や、輸送形態の変化により減少すると思われる。普通トラックは、公共投資と底堅い需要が続く。大型バスの伸びは鈍化するものの、旅客関係の需要は継続すると思われる。」との情報。

『機械部品加工』…工作機械関連は「全般的には横ばいの状況であるが、レーザー加工機等の戦略機種で増産の動きが一部ある。」との一方「全体的に下降傾向である。」「鋼材等の材料費値上げを販売価格に転嫁できない為、経営を圧迫している。」との声。自動車部品に関しては「新規顧客の受注で売上は増加したが、既存部品は低調に推移している。」とのコメント。

『繊維加工』…「アメリカの政治動向により、一部商品の売上減少が予想される。」との声。

『電子機器』…「縮小が続くと思われ、厳しい状況が迫ってきている感触がある。」とのコメント。

『製材』…「仕入先より、4・5月に原材料の値上げを段階的に行うと言われており、今後、厳しくなると思われる。」との声。

『印刷』…「決算時期の為、印刷物が増加気味であるが、今後は不透明である。」「広告の多様化により、紙媒体からSNSなどのツールにシフトしており、厳しい状況である。」との声。

『食品』…「原料の価格高騰が続いており、厳しい状況は変わらないと思われる。」「過当競争の為、値上げ難となっており利益確保が難しい。今後も価格競争は続くと思われ、デフレ脱却の見通しがたたない。」とのコメント。その他「人手・人材不足が日ごと厳しくなっている。常葉大学の移転により学生アルバイトが少なくなり、より一層人手不足が発生する。会議所として大学等の誘致に努力すべきではないか。また、行政の方針を新聞でみる限り、期待は持てないのが実感である。」「大手の加速度的な地方進出による影響が大きい。このままでは、地方色がなくなり画一化したものになってしまうのではと危惧している。」との声。

その他「業界問わず、人材不足が懸念される。」との声。

	好転%	不変%	悪化%	今期DI	来期予測
業況	25.0	62.5	12.5	12.5	下降
売上高	40.0	42.5	17.5	22.5	下降
採算	27.5	50.0	22.5	5.0	下降

## 〔建設業〕 景気ムード…【低調】

『総合建設』…「受注額は未だに厳しく、粗利の減少も続いている。」「東京オリンピック需要で仕事は増すと耳にするも、先行きは不透明である。また、人材不足は慢性的になっており不安感は大い。」など厳しい声が多く寄せられた。

『建設関連』…「需要は減少傾向にあると思うが、好業績の企業も多数あるので努力次第で業績を上げることができると思う。」とのコメント。今後について「仕事量は減少しないと思うが、現在の単価を下げずに維持できるか不安である。」「過当競争の長期化により競争力が低下しており、見通しは暗い。」など厳しい声。一方「御殿場方面を中心に新東名関連の仕事により、忙しい時期を迎える。富士地区では、ビジネスホテルの建設が忙しくなってきた。その他、新富士インター地区の開発工事など、大型プロジェクトがあり、建設業は仕事があるといった状況である。」「富士川楽座の観覧車、老人ホーム系の受注が年度末の時期と重なり、多忙であった。」とのコメント。

『一般住宅』…「好調を維持しているが、5月以降、業績が悪化する可能性がある。」「需要が減少している中、業者過多による過当競争で厳しい。」との声。

『土木関連』…「公共工事が少なくなる様で心配である。」「東京オリンピック・パラリンピックの工事が終わる約1年前になると地元業者が戻り、建設関係は、また価格競争になると恐れ心配である。」など今後を危惧する声が多く寄せられた。「富士市では造園業者と土木業者の区別がある程度見られたが、近年、その形態が薄れ、お互いにけん制し、結果として請負価格が低下している。」との情報。また「若者の人材不足に悩む」との声。

	好転%	不変%	悪化%	今期DI	来期予測
業況	20.0	64.0	16.0	4.0	下降
売上高	28.0	52.0	20.0	8.0	下降
採算	32.0	52.0	16.0	16.0	下降

## 〔卸売業〕 景気ムード…【低調】

『機械器具』…「インターネットによる通販がライバルとなって数年がたった。価格と手軽さで、業界のシェアの割割を占めていると思うが、販売の努力とユーザー対応で、今は大きな脅威にはなっていない。」とのコメント。「部品等の受注、引き合いが増えている。しばらく好調が続くと思われ期待している。」と明るい声の一方「小規模事業者は経営者の高齢化等により廃業が増えており、また、大手・中堅との格差も拡大しつつある。」との声。また「当面の需要は横ばい又は若干拡大すると思われるが、受注しきれず、機会損失となっている。」「原材料が上昇しつつあり、価格を見直す必要性を感じている。」とのコメント。

『自動車部品』…「昨年の対前年車検台数は96%であったが、今年是对前年104%という予測になっている。また、1月の新車販売台数も、前年同月比で8.5%の増となったことなどで、今年の新車整備部品需要は、5~6%の伸びが見込まれる。」との声。

『紙』…「デジタル化などの影響もあり、需要が更に減少していると感じる。」とのコメント。「製紙メーカーから値上げの発表があった。今後、末端ユーザーまで値上げが浸透する事に期待している。」との声の一方「小売店の廃業に伴い包装用紙は減少の一途である。」との声。

『製紙原料』…「中国の消費拡大に伴う紙需要の増大により、国内の古紙の輸出価格も上昇している。」「海外の原料輸出価格と国内価格は極端に差があり、仕入れ競争が起きている。」「産業古紙は相変わらず発生が少なく、過当競争が続く、今後も原料は減少傾向と思われる。」との情報。また「アメリカ経済の好調、中国での紙需要の拡大などによって、為替が更に円安傾向に進むと、輸出価格が高値安定となる可能性がある。国内メーカーも製品価格へ転嫁できるか大きな局面を迎える。」とのコメント。

『再生資源』…「東南アジア・中国の好況、米国新政府のインフラ整備、自国産業保護の為、鉄・非鉄の

スクラップ単価は上昇しているが、国内の発生は少ない。」「鉄鋼製品は、中国の増産による値下げやだぶつきが落ち着きをみせ、また長期間続いている鉄鉱石・石炭価格の高値推移と相まって、世界的に価格は上昇に転じている。その為、スクラップ価格も少しずつ上昇傾向である。」との声。その他「地元産業の不振による設備投資減少が、各産業に影響している。」とのコメント。

『工業薬品』…「生産調整による販売量の減少。」「4月以降、原油価格の上昇による原材料値上げが一部あるため、年度末は購入依頼が増加する見通しである。その為、来期は値上げ後に厳しい状況となる可能性が高い。」との声。また「大王製紙による日清紡ペーパープロダクツ買収により今春以降、関連する企業の取引等に変化が発生する見込み。」との情報。

『建築材料』…「本来忙しいはずの年度末も官公庁の仕事が少ない為、落ち着いているようだ。来期については、ある程度の売上が見込めそうだが、その先安定して売上を伸ばしていけるかは見通しが立たない。」との声。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業況	28.6	38.1	33.3	▲4.7	上昇
売上高	42.9	33.3	23.8	19.1	横ばい
採算	38.1	33.3	28.6	9.5	下降

## 【小売業】 景気ムード…【厳しい状況】

『衣料品』…「販売価格の値上げ難及び、需要の低迷により、悪化するように思われる。」「厳しい状況は続くと思われる。」との声。呉服は「川上から川下まで後継者不足で、廃業するところがこれから増加すると思われる。」とのコメント。

『各種食料品』…茶は「農業・茶業を放棄する畑が見られるが、耕作放棄地の問題を解決する方法が分からず困っている状況である。」「国内でのリーフ茶需要の継続的な低迷、また贈答用途としての需要低迷が予測され、未だ生産過多な状況が続く、廃業や農地転換が増えると思われる。」との声。一方「海外での抹茶ブームがさらに続き、引き合いが多い。」「県内では浸出液をワインのように瓶詰めしたボトリングティーの展開が目立つ。」との情報。また、「新茶を味わうのは日本人にとって大変楽しみなことだと思う。生産者・販売者がお茶の良さのPRに努めなければならないが、行政にも力をいれてもらいたいと思う。」との声。菓子「人手不足が慢性的となっている。人手不足が解消されれば、自然と良くなると思われる。」とのコメント。

『家電』…「4K対応テレビの動きが顕著になってきている。」との情報。

『日用品・雑貨』…「昨年秋は、販売不調の眼鏡店が多く、百貨店などの売上月報もマイナスを記録したようだ。」との声。

『自動車』…「経済産業省は、電気自動車（EV）や、プラグインハイブリット車（PHV）の購入補助金算出方法を5月から変える方針で、電動系エコカーの普及を後押しするようだ。EVやPHVは、価格面でHVより高額の為、需要はさほど伸びないように思える。」とのコメント。

『自転車』…「2～3月は電動自転車の販売が好調で、学生の通学車として昨年対比30%アップとなった。また幼稚園の送迎車としても人気上昇中である。」との情報。今後についても「例年5月以降は客単価が大幅にダウンしているが、今年は最小限に抑えられる見込みである。」との声。

『金物・荒物』…「市役所の受注先に、名義借りや無人事務所を持つ市外業者が増えている。」との情報。商店街では、若手YWC（よしわら若だんなクラブ）のメンバーを中心に行ったウェブ勉強会が終了した。県と市の補助によるパワーアップ事業だが、単に通販をするだけでなく実店舗の売りたいコンセプトをつくり、実店舗の来客増も目指すものであり、若手のやる気に期待している。」とのコメント。

『機械器具』…「売上の向上が見込め、今後期待している。」と明るい声。

『その他』…「商店街は、閉店が続いており、物販店が姿を消そうである。」とのコメント。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業況	14.3	52.4	33.3	▲19.0	下降
売上高	38.1	38.1	23.8	14.3	下降
採算	23.8	52.4	23.8	0.0	下降

## 〔サービス業〕 景気ムード…【厳しい状況】

『飲食』…「プレミアムフライデーは、地方への波及には時間がかかると思われるが、マスコミに取り上げられることによって、盛上って来ることに期待している。」とのコメント。「人手不足は深刻で、出店計画にも支障がでてくることも。」との声。「軽トラ市・おかみさん会等のイベント時は来街者が多いが、普段の日は少なく大変である。個人的には色々やっているが、今ひとつ売上げが伸びない。」とのコメント。

『旅館・ホテル』…「新規ホテルの進出ラッシュに対応が追いつかない。今後の不安が多い。」「富士、富士宮に新しいホテルが続々と進出して、既存の宿泊業は大苦戦している。」との声。

『衣類等クリーニング』…「OPECの減産同意により、原油の値上がりが始まり、資材・燃料が緩やかに上昇し続けている。人件費の上昇と合わせ、今後を危惧している。」とのコメント。

『自動車整備』…「業界全体は、仕事不足である。今期の仕事量は安定していたが、先が見えない状況である。」との声。

『運輸・倉庫』…「貨物の動きは安定しているが、忙しいほどではない。」との情報。「ヤマト運輸をはじめとする宅配便業者が、連日ニュースを賑わしている。この問題を機に、物流業界全体の不利益、過剰サービス体質が改善されることを期待する。」「労務管理において、一物流会社では対応しきれない状況になっている。メーカー、販売ディーラー、物流子会社等や荷受側・荷主側まで含めて、対策が急務になると思われる。」とのコメント。

『不動産』…「住宅地購入等の需要が少し落ちてきた様に思う。」「岳南経済が良くならないので、給与がなかなか上がらず、今後の好転に期待感をもてない需要者が多いと思う。」との声。「空き店舗が出て新しい店舗の開店がある為、動いている感がある。」とのコメント。その他「相続等における土地処分案件が増えている。」との情報。

『広告』…「過当競争による販売価格の低下により、利益率の減少が継続すると考える。」との声。

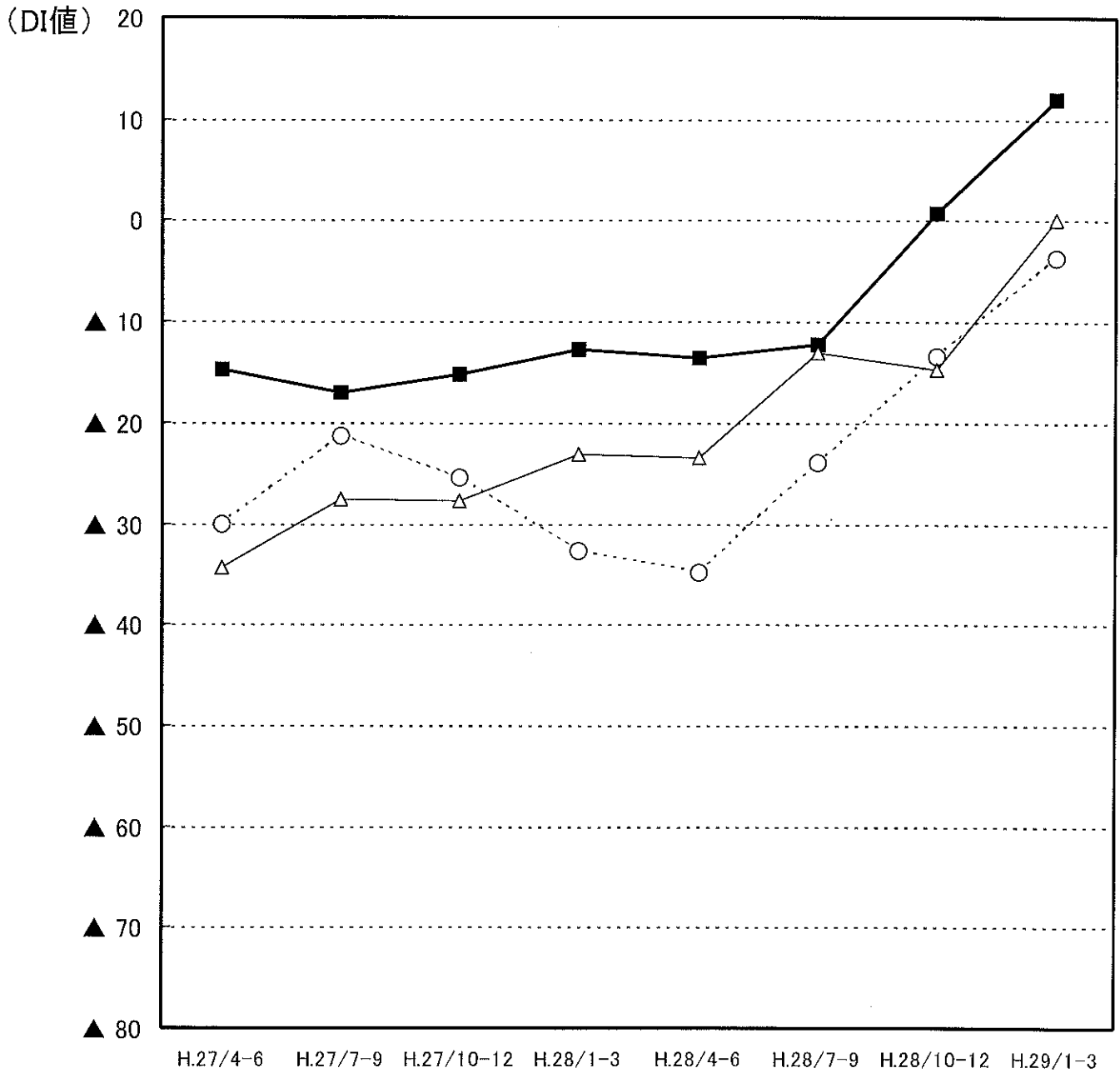
『自動車学校』…「大規模校の授業料値下げにより、業界の流れが薄利多売傾向に動いている。今後を考えれば、少しでも価格を上げていくことが、生き残る秘訣になると思う。」のコメント。

『専門サービス』…社会保険労務士事務所は「過当競争が激しい。」との声。税理士事務所は「中小企業全般において、受注量は比較的安定しているように見受けられるが、採算面では大変厳しくなっている。そのため、我々の業界としても、影響は避けられない」「相続案件は増加しているものの、事業者（法人・個人所得）の減少により厳しい状況。」との声。また今後について「経営者の高齢化及び、事業承継の問題や人手不足による人件費上昇を考えると大変厳しい状況が想定される。」とのコメント。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業況	14.8	48.1	37.0	▲22.2	下降
売上高	26.9	38.5	34.6	▲7.7	下降
採算	15.4	38.5	46.2	▲30.8	下降

# 全産業主要調査項目の 前年同期比DI推移状況

■ 売上    ○ 業況    △ 採算



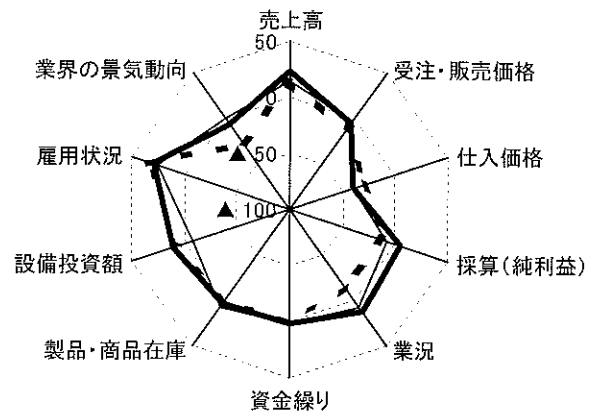
(調査期間)

# レーダーチャート

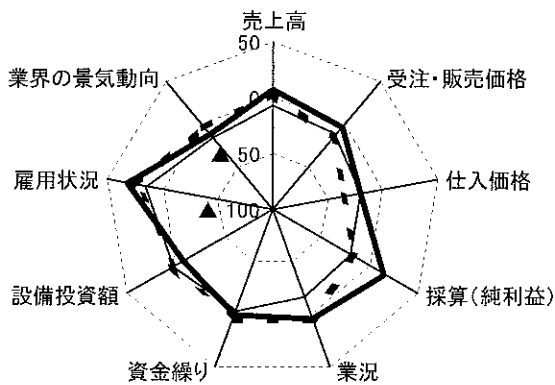
売上高	増加・減少
受注・販売	上昇・下降
仕入価格	下降・上昇
採算	好転・悪化
業況	好転・悪化
資金繰り	好転・悪化
製品・商品在庫	減少・増加
設備投資額	増加・減少
雇用状況	不足・過剰
業界の景気動向	好転・悪化

前年同期比	———
来期予測	———
前回調査時	- - - -

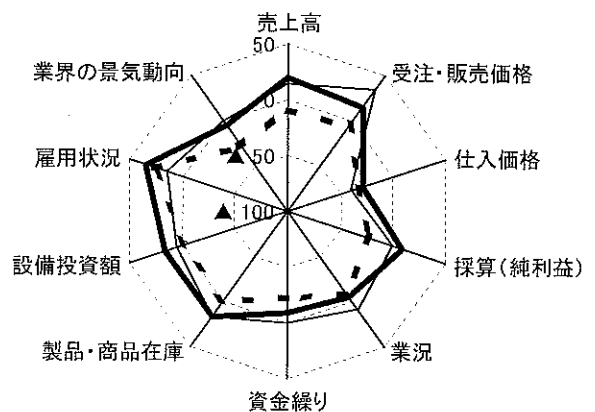
## 【製造業】



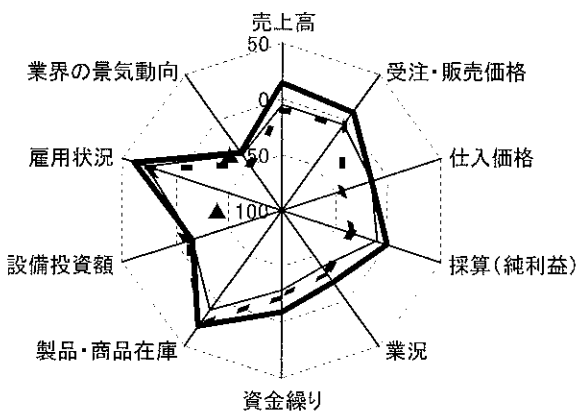
## 【建設業】



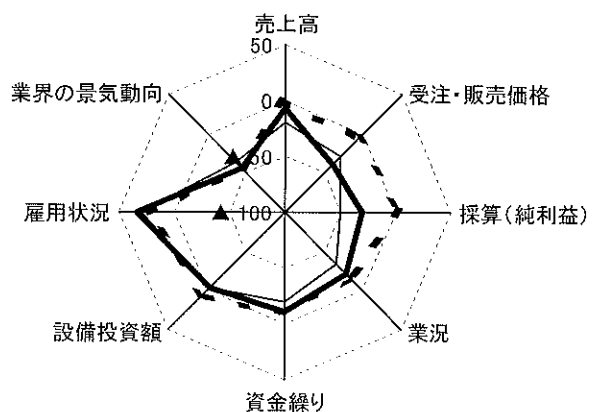
## 【卸売業】



## 【小売業】

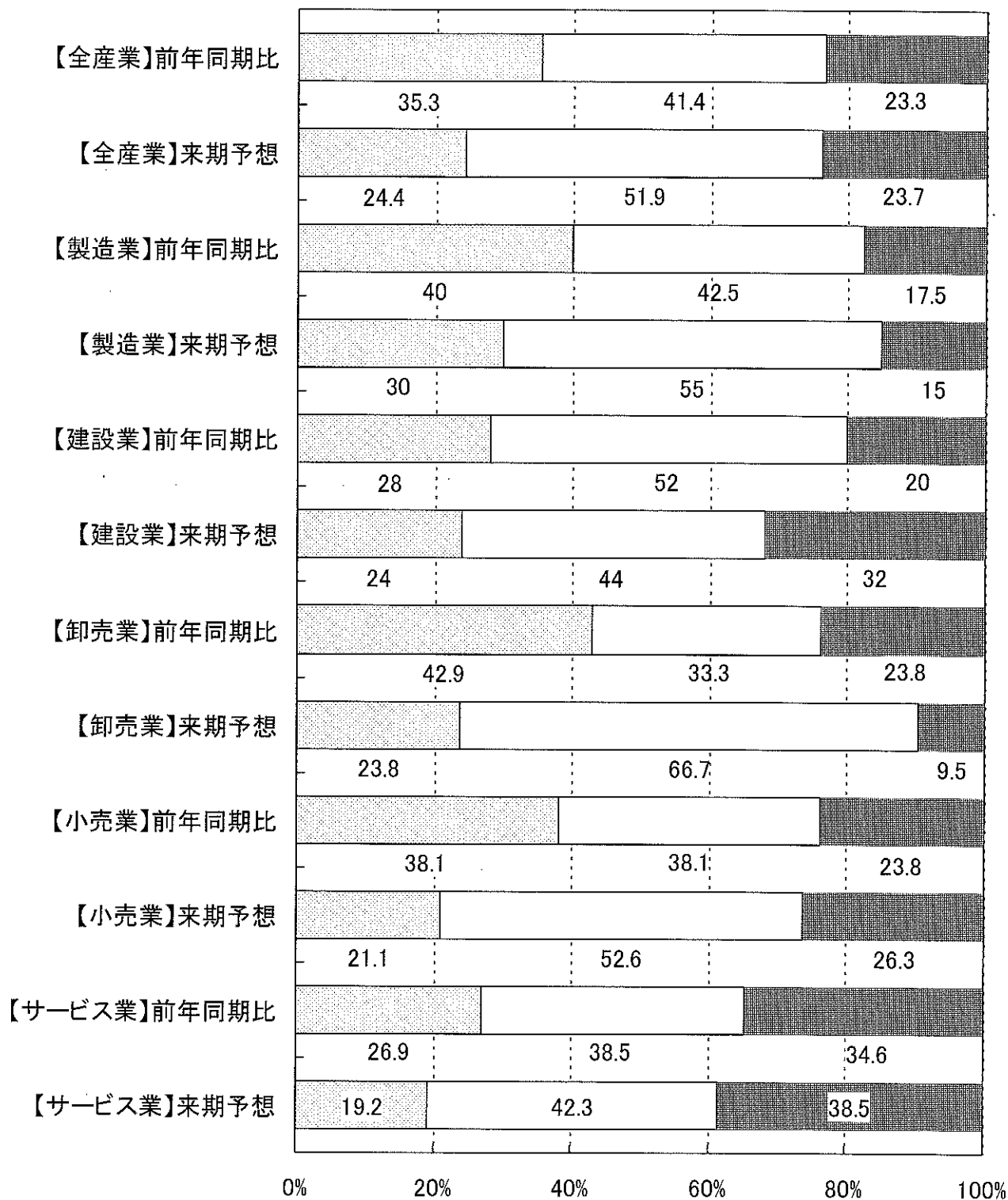
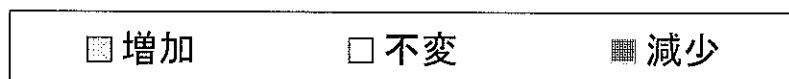


## 【サービス業】





# 売上高の前年同期比と来期予測



◇ 経営上の問題点 ◇

産業別	上位回答項目
製造業	<p>1 位 人材不足／設備老朽化</p> <p>2 位 販売価格値上げ難</p> <p>3 位 商品、原材料仕入れ価格の上昇／人員不足</p> <p>その他 過当競争</p>
建設業	<p>1 位 人材不足</p> <p>2 位 官公需停滞</p> <p>3 位 過当競争／設備老朽化</p> <p>その他 人件費高騰</p>
卸売業	<p>1 位 過当競争</p> <p>2 位 商品、原材料仕入れ価格の上昇／人材不足</p> <p>3 位 売上、利益減による資金圧迫／人員不足／設備老朽化</p> <p>その他 売上減に伴う利益減</p>
小売業	<p>1 位 売上減に伴う利益減</p> <p>2 位 売上、利益減による資金圧迫</p> <p>3 位 人員不足</p> <p>その他 その他の需要の低迷／販売価格値上げ難</p>
サービス業	<p>1 位 売上減に伴う利益減</p> <p>2 位 過当競争／売上、利益減による資金圧迫／設備老朽化</p> <p>3 位 販売価格の低下／販売価格値上げ難</p> <p>その他 人件費高騰／人員不足</p>